

社会

➔ 3年生 | 「身の周りの地域」

パソコンを使って、あえて不完全な
絵地図を作らせよう

1. はじめに

3年生の社会科は、自分の学校の周りの様子を絵地図にまとめることから始まる。学区探検をして、見つけたものを絵地図にまとめていく。通常は、模造紙などの大きな紙を使ってグループ学習していくことが多い。社会科ではこうした手作業も大事だが、ここではパソコンを使って絵地図にまとめさせる授業プランを、私の失敗経験をもとにご紹介したい。

2. 実践例

パソコンを使って作業をすると、次のようなメリットがある。

1. 手作業に比べて短時間で作業ができる（スタンプ機能）。
2. 少人数（個人や2人組）で作業ができる。
3. ひとりずつ完成版を印刷できる（掲示物にもなる）。
4. 見栄えがよい。

勤務校には、「ジャストスマイル」という児童用総合ソフトが入っている。かつて私はこの中の「地図スタジオ」というソフトを使い、画面①のような作品を作らせていた。手がきよりも見栄えよく、しかも短時間ででき、また掲示物としても使えるため、大変有効だと思っていたのだが、今は、社会科としてこの作業は有

効なのかと疑問を抱いている。

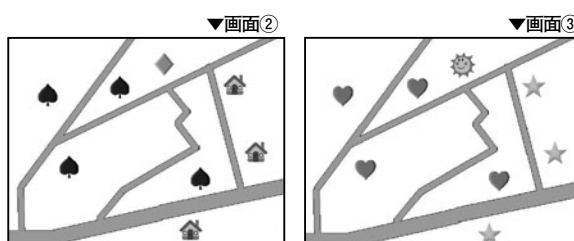
今なら、「お絵かきソフト」を使って同じ作業をさせる。「地



図スタジオ」との違いは、スタンプ機能の中身である。「地図スタジオ」には、最初から建物記号のようなスタンプマークが備わっている。そのため、どのグループに作らせても、画面①のような、だいたい同じような地図ができてしまう。

一方、「お絵かきソフト」にもスタンプ機能はついていて、その中には地図記号もあるのだが、それ以外にも様々な種類のマークがあるので、作業をさせると、同じ建物を表すのにも、いろいろな種類のスタンプが使われる（画面②・③）。

※レイヤー機能を使い、ベースとなる道路の地図は教師が作成して配布し、作業をさせる。



（「お絵かきソフト」を使って作成した地図）

こうした「不備な絵地図」をあえて作らせることで、マークがそろっていないとわかりにくい→「地図記号の必要性」へと子どもの意識を導くことができる。この際の修正作業もレイヤー機能を使えば、どの地図も画面④のように統一されていく。こうした作業を通して、地図記号の共通性、普遍性に気が付く子どもを育てたい。

